

【2021年度】放課後等デイサービス事業所における自己評価

公表：2022年3月31日 職員数5名で会議

事業所名 放課後クラブ ルンバルンバ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	1	4	分散活動でスペースを確保している。家具移動を行う等して場所の確保をしている	運動・課題とした際に時間によってはやや狭い。机等の配置を考えていく。
	2	職員の配置数は適切である	2	3	緊急時職員が不足している。声がけし連携を取って業務を遂行している	職員を増やすことでもっと行える活動があると感じる。通常の支援ではやや適切。しかし、長期休みになると時間の確保が難しい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	整理整頓を心がけている。	玄関・ト。イレに設備あり
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	毎日の振り返りで共有している。ミーティングを行っている。	日々の振り返り等の内容を充実させてより良いものを目指します。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	1	定期的な家庭訪問等を実施している。	事業所評価表を年に1回行って移行調査している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	担当職員がおり作成に従事している。	職員で結果をシェアして業務改善に活かしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	保護者の通所前見学を児童の体験とともにこなっている。	第三者から客観的に評価してもらうことで多角的・多面的に業務改善が期待できる。今度検討。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	全体研修を行い切磋琢磨に励んでいる。	業務のICT化を進め、外部研修サービス等を取り入れている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	日々の打ち合わせに管理者や現場責任者が参加している。	日々活動のPDCAと保護者面談内容を含め、計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	放課後ケアネットワーク様式で統一している。	開所当初から同じツール。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	T1の元全体で確認し意見を出し合って立案している。	荷重が特定の人に偏っている。全員で考える機会を持つ必要がある。個人で行う部分が多い。それぞれの担当の明確化を求める。今以上のチームワークが職員同士必要。

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	ねらいを設けてそれに沿った活動を行なっている。	計画に沿って行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	長期休暇を大成とし日々の活動を積み重ねている。	課題については進展なども細かく打ち合わせしていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	平日・長期休みともにスケジュールの中で個別・集団活動をおこなっている。	特性に応じた個別の活動ができるように職員の支援の目を育てる。支援ツールの開発。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	必ずミーティングを開き意見を出し合う。	話し合われた内容が実施できているのかの確認を職員同士で行うことが必要。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	毎日の振り返りや会話にて共有している	振り返り内容を活かせるよう柔軟な思考と行動ができる職員へ教育が必要。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	ICT化で手書きからiPad入力に切り替えた。	PDCAを記録の中に入れ、支援の感想にならないようにしていかなければいけない。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	2	年に2回のモニタリングを実施している。	毎日の打ち合わせに時間をかけている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	0	ガイドラインに沿っている。	基本活動を充実させ長期休みにお出かけ等で成果を確認している。
関係機関や保護者との	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	管理者がおこなっている。	職員の研修又は次期児童発達支援管理責任者等を同行させて教育も検討する。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	0	送迎に携わる職員が連携して情報収集に努めている。	年度はじめに年間行事と下校時間の確認を案内してコピーをもらっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	4	受け入れ態勢はない。	無理に受け入れることはしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2	担任への電話での連絡で対応している。	コロナもあるが、管理者が保護者と打ち合わせし担任の先生と情報共有を必ずしている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	0	相談支援事業所への情報提供を行う。	保護者の意向などを聴取して対応している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	外部の研修を充実させている。	今後検討

連携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5	毎日の振り返りや会話にて共有している	今後検討。コロナのため。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	3	時期を見て参加検討	今後検討
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	話の聞き方などe-Learningで研修し、感じの良い態度で応答している。	研修継続
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	0	面談時、又は施設見学时にその場で指導することもある。	管理者が面談に行き、事業所と家での情報を聞いて必要に応じて支援している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	0	契約時に説明している。	代替支援などの際もホームページにて情報公開を継続する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	0	事情聴取した職員が担当につなぐことを徹底している。	連絡帳・保護者面談時にて対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4	コロナの時期を見ている。	今後、企画していきたい。今後検討。コロナのため児童と職員のための活動をたくさん経験していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	話しやすい雰囲気を作り傾聴、かつ担当に速やかに繋ぐ努力をしている。	苦情はないが問い合わせがあった際に担当をもうけて対応している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	担当職員が定期的に作成している。	ルンバ通信を毎月定期的に発行、ホームページにて活動ブログを更新している。
	35	個人情報に十分注意している	4	0	フェースシートを誰でも見れるようにし、そこに記載している。	具体的な問題事例の検討など。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	管理者が面談時におこなっている。	支援ツールなどを職員ミーティング時に話し合っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4	コロナの様子を見て検討	地域の活動に参加するなど、地域との繋がりを持てる機会が必要。近隣の住民との交流を行なう。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	マニュアル作成に全員が携わり実践している	コロナなどの情報伝達がやや不足→研修で補う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	防災週間を設けて特別な歩行メニューを行なっている	毎月定期でおこなっている。

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	2	職員主体の研修をおこなっている。	研修で調整する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	0	職員主体の研修をおこなっている。	研修にて動画等を交えながら職員へ情報提供している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	保護者からの申し出で把握している。フェースシートを誰でも見られるようにし、そこに記載している。	毎日の打ち合わせにて話を出して確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	1	事例がある際に職員でシェアする。	研修などで職員とシェアする